

札幌市アイスリンク基本構想【概要版】

序章 構想の策定にあたって

1. 構想の目的・必要性

更新時期を迎える 既存施設の対応を明確化

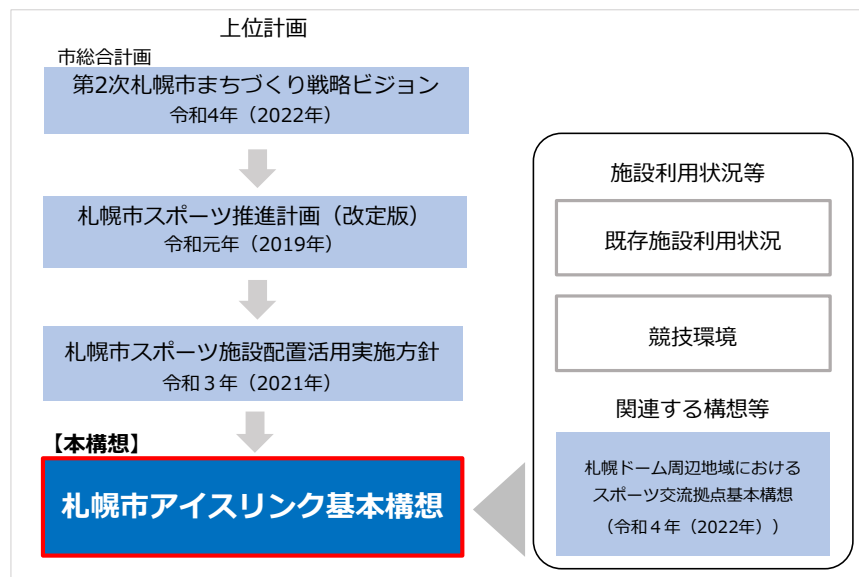
- 更新時期（2030年頃）が近づいている、1972年札幌オリンピックに併せ整備した施設について、今後の対応を明らかにすることが必要

将来に向け必要な 施設機能を明確化

- 時代の変化や将来的な見通しを踏まえ、今後、確保すべき施設機能を明らかにすることが必要

アイスリンクの将来像及びその実現に向け必要な対応を明確化

2. 構想の位置付け



3. 構想の対象施設

札幌市が所管するアイスリンク（スケートリンク、カーリングリンク）
※必要な機能等の整理にあたっては、市内に立地する北海道所管の施設（スケートリンク、スピードスケートトラック）の状況も踏まえることとする

第1章 目標・方針

1. 目標

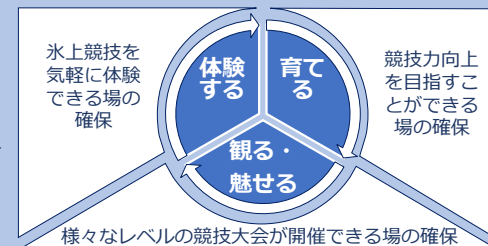
ウィンタースポーツシティの実現に向けた アイスリンク施設環境の形成

札幌市におけるウィンタースポーツを支えるうえで不可欠なアイスリンク（スケートリンク、スピードスケートトラック、カーリングリンク）について、ウィンタースポーツの振興、ウィンタースポーツシティの実現に向け、市民や国内外からの観光客など、誰もが気軽に氷上競技に触れ・取り組むことができるとともに、人口減少社会や超高齢社会が進展していく中においても持続可能な施設環境の形成を目指します。

2. 方針

方針1 氷上競技の振興・裾野拡大

- ・現在の施設利用状況や、競技環境の変化等を踏まえ、将来にわたり氷上競技を「体験する」「育てる」「観る・魅せる」ために必要な施設機能を確保することにより、競技振興・裾野拡大に寄与



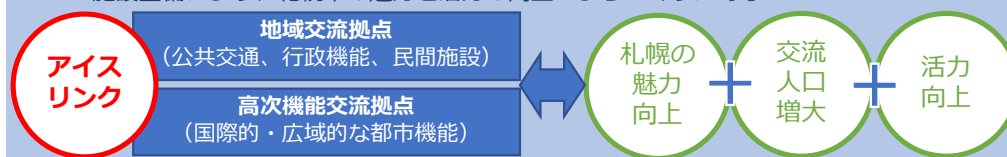
方針2 持続可能な施設環境の整備

- ・他施設との集約・複合化、民間活力の導入等による効率的・効果的な施設配置・整備・運営により、利用者の利便性向上を図るとともに、将来にわたり持続可能な施設環境を実現



方針3 都市の魅力向上・まちづくりへの寄与

- ・多様な都市機能が集積する地域交流拠点や、高次機能交流拠点の形成等と連携した施設整備により、札幌市の魅力と活力の向上・まちづくりに寄与



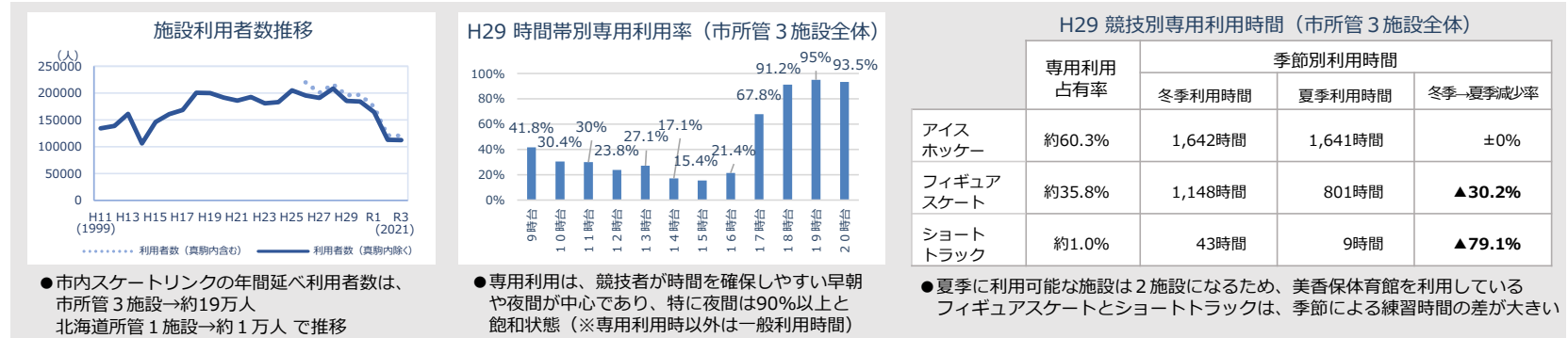
第2章 アイスリンクの現状（1）

1. スケートリンク

1-1 基本情報

施設名	整備年度	構造・階数	延床面積	利用期間	客席数	備考
月寒体育館	1971	鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 地上1階・地下1階	9,780㎡	通年	2,321	・アイスホッケー、フィギュアスケート、ショートトラックに利用 ・各競技の国際・全国大会等を開催
美香保体育館	1971	鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 地上2階	6,655㎡	冬季のみ	1,271	・フィギュアスケート、ショートトラックに利用 ・月2回程度土曜日夜間のみカーリングリンク（4シート）として利用 ・上記競技の地方大会等を開催 ・夏季は体育館として利用
星置スケート場	1985	鉄骨造平屋	3,175㎡	通年	なし	・アイスホッケー、フィギュアスケートに利用 ・篤志家の寄附を受け供用開始
（参考：北海道所管） 真駒内セキスイハイム アイスアリーナ	1970	鉄骨鉄筋コンクリート造 地上3階・地下1階	18,890㎡	冬季のみ	6,024 （立見等を含め 約10,000）	・アイスホッケー、フィギュアスケートに利用 ・各競技の国際大会等を開催 ・夏季は体育館として利用 ・コンサート等の興行イベントにも利用

1-2 施設利用状況



1-3 スケートリンクを利用する競技の状況

アイスホッケー・パラアイスホッケー

体験する場 体験会等の開催状況

- R4年度の施設管理者主催の体験会参加者は定員の約68%

育てる場 市所管施設における練習等の状況

＜札幌連盟登録＞ 競技者約1,200名、68チーム

＜パラスポーツ＞ パラアイスホッケー 1チーム

- スケートリンク専用利用時間全体のうち約60%を占める
- 夏季と冬季の専用利用時間の差が少なく、競技環境は年間を通して安定

観る・魅せる場 競技大会等の開催状況

- 月寒体育館を中心に、大会規模等に応じ施設を使い分けしているが、大会規模により選手控室等が不足することなどが課題
- 市内にパラアイスホッケーの試合に対応した施設はない

フィギュアスケート

体験する場 体験会等の開催状況

- R4年度の施設管理者主催の体験会参加者は定員の約84%

育てる場 市所管施設における練習等の状況

＜札幌連盟登録＞ 競技者約160名、24チーム

- スケートリンク専用利用時間全体のうち約35%を占め、夏季の利用時間は冬季より約30%減少
- 通年での競技環境が不安定で、市外施設利用による負担大 → 競技力の維持向上、裾野拡大の阻害要因の可能性

観る・魅せる場 競技大会等の開催状況

- 大会規模等に応じて施設を使い分けしているが、大規模な大会では選手控室等が不足することなどが課題
- 夏季の大会は、月寒体育館・星置スケート場で開催しているが、アイスホッケーのガードフェンスが競技の支障

ショートトラック

体験する場 体験会等の開催状況

- R4年度の市主催の体験会は定員を上回る応募があるが、施設機能として不足している状況にはない

育てる場 市所管施設における練習等の状況

＜札幌連盟登録＞ 競技者約20名、4チーム

- スケートリンク専用利用時間全体の1%未満で、夏季の利用時間は冬季より約80%減少
- 通年での競技環境が不安定で、市外施設利用による負担大 → 競技力の維持向上、裾野拡大の阻害要因の可能性

観る・魅せる場 競技大会等の開催状況

- 大会規模等に応じて施設を使い分けており、施設面で大きな問題はない

市所管施設の状況

- 月寒体育館**
築50年が経過し、2030年頃が更新時期。躯体の劣化状況、施設機能面（諸室不足、パラ未対応）で課題あり
- 美香保体育館**
築50年が経過し、2030年頃が更新時期。施設機能面（断熱性能・諸室不足）で課題あり
- 星置スケート場**
更新時期を迎えるまで、今後20年程度は利用可能。施設機能面（パラ未対応）で課題あり

施設利用状況

- 市内のスケートリンクは、市民がスケートを体験する場として、また、札幌の氷上競技を支える場として重要な役割を担っており、他に代替機能はない
- 一般利用者数は、1施設平均約115人・日、最大800人・日
- 専用利用は、競技者が時間を確保しやすい夜間の利用率が90%以上と飽和状態

スケートリンクの現状まとめ

【体験する場】

- ・既存4施設は、数多くの一般利用者がスケートに親しむ場として、また、各競技を体験する場として、欠かすことが出来ない機能

【育てる場】

- ・アイスホッケーの競技環境は年間を通して安定しているが、最も競技人口が多く専用利用時間数に余裕はない
- ・フィギュアスケートやショートトラックは夏季に利用可能なリンクが半減するため、競技環境が不足

【観る・魅せる場】

- ・大会等は、市内4施設を使い分けて開催しており、今後も大会規模に応じた観客席の確保が必要
- ・フィギュアスケートの大会について、夏季は月寒体育館で開催しているが、アイスホッケー用ガードフェンスが審査などの支障となっている状況

第2章 アイスリンクの現状（2）

2. スピードスケートトラック

2-1 基本情報

施設名	整備年度	構造・階数	延床面積	利用期間	客席数	備考
（参考：北海道所管） 真駒内セキスイハイム スタジアム	1970	鉄筋コンクリート造 地上2階	7,536㎡	冬季のみ	17,324	・市内唯一のスピードスケートトラック

2-2 施設利用状況

- 年間延べ利用者数は1万人を超える年があったものの、近年は数千人程度で減少傾向（R2以降は施設故障で利用不可）

2-3 スピードスケートトラックを利用する競技（スピードスケート）の状況

体験する場 体験会等の開催状況

- R4年度の市主催の体験会は定員を上回る応募があるが、施設機能として不足している状況にはない

育てる場 市所管施設における練習等の状況

<札幌連盟登録> 競技者約20名、8チーム

- 真駒内セキスイハイムスタジアムが利用可能な冬季は競技環境は充足
- 夏季は、自転車などの予備的なトレーニングを行うことが一般的
※強化選手は帯広などの屋内施設を拠点に活動

観る・魅せる場 競技大会等の開催状況

- 真駒内セキスイハイムスタジアムを会場とし、特に問題はない
- 屋内で行う必要がある国際大会等は、帯広や長野などで開催

施設利用状況

- 北海道所管の真駒内セキスイハイムスタジアムは、市内唯一のスピードスケートの場として利用され、ほかに代替機能はない

スピードスケートトラックの現状まとめ

【体験する場】【育てる場】【観る・魅せる場】

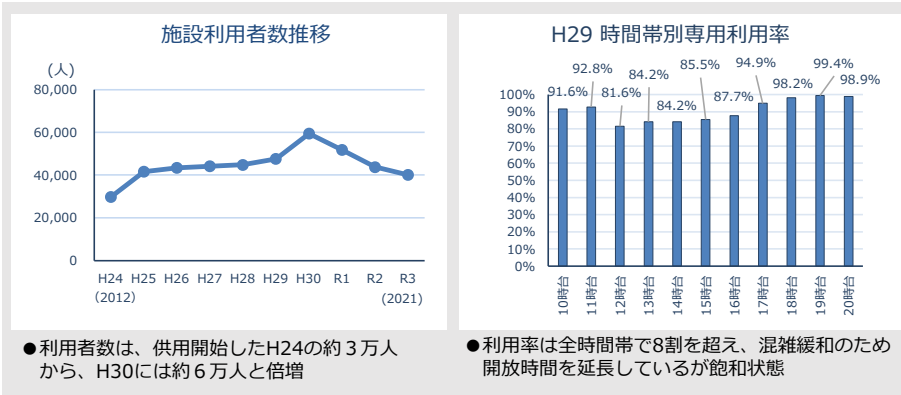
- ・北海道が所管する真駒内セキスイハイムスタジアムにより、市内のスピードスケートに係る競技環境は確保
※強化選手の練習や、一定レベル以上の大会等は、帯広などで実施

3. カーリングリンク

3-1 基本情報

施設名	整備年度	構造・階数	延床面積	利用期間	客席数	備考
どうぎんカーリング スタジアム	2012	鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 地上2階	3,375㎡	通年	224	・カーリング専用施設 ・通年リンク5シート ・全日本選手権、冬季アジア大会等を開催
美香保体育館	1971	鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 地上2階	6,655㎡	冬季のみ	1,271	・月2回程度土曜夜間のみスケートリンクをカーリングリンク（4シート）として利用 ・夏季は体育館として利用

3-2 施設利用状況（どうぎんカーリングスタジアム）



施設利用状況

- カーリングは、2012年度以降に競技人口・チーム数ともに倍増し、利用率は全ての時間帯で80%を超え、飽和状態
- 競技利用のほか、市民利用や観光体験などの需要も高まっているが、利用率は飽和状態にあり、気軽に利用できない
- 美香保体育館は、氷の状況が専用カーリングリンクと異なり、競技利用に向かないものの、初心者が体験する場としての利用がある

市所管施設の状況

- どうぎんカーリングスタジアム
更新時期を迎えるまで、今後50年程度は利用可能
- 美香保体育館
現在、築50年が経過し、2030年頃が更新時期。施設機能面（断熱性能・諸室不足）で課題あり

3-3 カーリングリンクを利用する競技の状況

カーリング・車いすカーリング・デフカーリング

体験する場 体験会等の開催状況

- レク利用等は申込みの1/3程度しか受入れできないなど場が不足

育てる場 市所管施設における練習等の状況

<札幌連盟登録> 競技者約450名、リーグ戦参加91チーム

<パラスポーツ> 車いすカーリング2チーム、デフカーリング3チーム

- どうぎんカーリングスタジアムの一般抽選利用倍率は平均約20倍
- 利用希望者が多い時間帯は、抽選倍率が200倍を超えるなど、飽和状態にあり、強化指定を受けていないチームの練習等は不十分

観る・魅せる場 競技大会等の開催状況

- どうぎんカーリングスタジアムは常に飽和状態のため、試合時間の短縮や出場チーム数を制限
- どうぎんカーリングスタジアムは、屋内外のスペースに余裕がなく、大会規模によっては、隣接する月寒体育館の駐車場を利用

カーリングリンクの現状まとめ

【体験する場】

- ・どうぎんカーリングスタジアムは常に飽和状態にあり、体験する場が不足

【育てる場】

- ・どうぎんカーリングスタジアムは常に飽和状態にあり、競技環境が不足
- ・美香保体育館は専用リンクではないため競技に不適

【観る・魅せる場】

- ・どうぎんカーリングスタジアムは常に飽和状態のため、試合時間の短縮や出場チーム数を制限
- ・どうぎんカーリングスタジアムは、大会規模によってスペースが不足

第3章 アイスリンクの将来像

1. 対応の方向性

- 氷上競技を「体験する場」「育てる場」「観る・魅せる場」として必要となる基本的な機能を公共が確保し、加えて民間による競技環境の拡充を推進することにより、更なる裾野拡大を目指す
- 第1章、第2章を踏まえ、「対応の方向性」を以下のとおり設定する



方針1 氷上競技の振興・裾野拡大

方向性1 スケートリンクの維持・強化

方向性2 カーリング機能の拡充

方向性3 民間活力を活かした施設整備

方向性4 競技大会に対応可能な観客席の確保

方針2 持続可能な施設環境の整備

方向性3 民間活力を活かした施設整備（再掲）

方針3 都市の魅力向上

・まちづくりへの寄与

方向性5 更新施設の拠点等への配置及び他施設との集約・複合化

2. 具体的な対応

方向性1 スケートリンクの維持・強化

・更新時期を迎える既存施設の後継施設整備
・夏季における競技環境不足への対応

(1) 月寒体育館の機能更新・後継施設整備（通年リンク）

- 後継施設は、現施設と同様にアイスホッケーの公式試合が開催可能な通年スケートリンク・観客席を備えるとともに、課題となっている諸室不足などの対応を検討

(2) 美香保体育館の機能更新・後継施設整備（冬季のみ→通年化）

- 後継施設は、現施設と同様にフィギュアスケート及びショートトラックの公式試合が開催可能なスケートリンク・観客席を備え、課題となっている諸室不足などの対応を検討
- 冬季限定となっているスケートリンクは、通年化を図ることで、選手・指導者の育成、競技力の維持・向上に資する安定的な競技環境を確保

(3) 星置スケート場の維持

- 星置スケート場は引き続き維持し、今後も適切に維持管理を行うことで延命化

方向性2 カーリング機能の拡充

・飽和状態にある競技環境への対応

(1) 拡充するカーリング機能（カーリング専用5シート新設）

- カーリング機能の拡充に向け、新たに専用カーリングシートを整備

(2) 有効活用に向けた施設整備

- 競技大会やレクリエーション（学校・企業・観光など）等、多様な利用を念頭に検討

(3) カーリング機能拡充を担う施設

- 新たな専用カーリングシートは、方向性5に基づき、美香保体育館の後継施設に設置

方向性3 民間活力を活かした施設整備

・民間活力導入等による効率的・効果的な整備・運営

(1) 民間との協働による公共施設整備

- 市有施設の新設・更新等に当たっては、PPP/PFIなど民間活力の活用を検討

(2) 氷上競技環境の拡充に向けた民間施設整備の推進

- 民間企業等が行う、市民が氷上競技に触れられる機会の創出を目的とした施設整備に対し、経費の一部を補助

方向性4 競技大会に対応可能な観客席の確保

・競技種別や大会規模に応じた機能確保

(1) スケートリンクの観客席数 月寒体育館の後継施設：2,000～2,500席程度を確保 美香保体育館の後継施設：300～500席程度を確保

- 大会開催にあたり、会場に求められる施設機能が競技によって異なるため、それぞれアイスホッケー、フィギュアスケート・ショートトラックに対応した大会機能を確保
- ▶ 月寒体育館：現在、アイスホッケーを中心に、観客数が約1,000人以上の大会等の会場として利用され、数年ごとに開催される2,500人規模の大会も複数開催されていることから、同程度の観客席が引き続き必要
- ▶ 美香保体育館：現在、フィギュアスケートやショートトラック競技における観客数が数百人程度の大会等の会場として利用されており、これに対応する観客席は引き続き必要

(2) カーリングリンクの観客席数 美香保体育館の後継施設：200席程度を確保

- どうぎんカーリングスタジアムは、大会規模によってスペース不足となる課題があるため、美香保体育館の後継施設においても、大会に対応できる観客席が必要
- 観客席は、観覧や利用者の待機場所など様々な用途で利用されており、どうぎんカーリングスタジアムと同程度の最低限の規模は必要

方向性5 更新施設の拠点等への配置

・効率的・効果的な施設配置

及び他施設との集約・複合化

・札幌市の魅力と活力の向上・まちづくりへの寄与

(1) 施設配置の考え方

- 均衡ある施設配置：アイスリンクは、現在、市内全域として比較的均衡ある配置となっていることから、新月寒体育館・新美香保体育館もこれを踏襲し、現施設近傍での整備を検討
- 施設の集約・複合化：新月寒体育館・新美香保体育館は、集約・複合化により、効率的・効果的な施設配置・運用が期待できる施設との一体的な整備を検討
- まちづくりとの連携：新月寒体育館・新美香保体育館は、多様な都市機能が集中する地域交流拠点や、高次機能交流拠点等における取組と連携した施設配置を検討

(2) 新月寒体育館の立地場所 市内南東部に配置

- 具体的な立地場所は、「札幌ドーム周辺」を候補地とし、札幌ドームとの集約・一体的な施設運営・活用やまちづくりへの寄与等、その実現可能性及び整備効果を検討のうえ決定

(3) 新美香保体育館の立地場所 市内北東部に配置

- 具体的な立地場所は、栄町や丘珠空港周辺に隣接する「つどいむ敷地」を候補地とし、つどいむとの集約・一体的な施設運営・活用や周辺のまちづくりへの寄与等、その実現可能性及び整備効果を検討のうえ決定

第4章 今後の進め方

1. 各施設における具体的な対応

【新月寒体育館】

- 立地場所（候補地）：札幌ドーム周辺（豊平区羊ヶ丘1番地ほか）
- 備える機能：スケートリンク（通年リンク、客席（固定2,000～2,500席程度））、その他（事務室、選手控室 など）

【新美香保体育館】

- 立地場所（候補地）：つどいむ敷地内（東区栄町885番地1）
- 備える機能：スケートリンク（通年リンク、客席（固定300～500席程度））、カーリングリンク（通年リンク5シート、客席（固定200席程度））、その他（事務室、選手控室 など）

【事業手法】

- 新月寒体育館及び新美香保体育館の整備にあたっては、それぞれの事業環境や考慮が必要な条件等を踏まえながら、PPP/PFIなど民間活力の活用が可能となる、最適な事業手法を検討

2. 氷上競技環境の拡充に向けた民間施設整備の推進

- 公共が確保する氷上競技を振興するうえで必要な基本的機能に加え、更なる裾野拡大を図るため、民間による競技環境の拡充を推進